

子連だより

No. 115

開会式では表彰式が行われ、長年関東甲信越静地区で活躍され、また功績のあった九人の方に感謝状と表彰状が送られました。その中で、今年の春まで当県子連会長として活躍された武士侯昭司氏に感謝状が贈呈されました。新潟県人として誇りに思いますし、県子連会長として十年の長きにわたり指導されてこられたことに、感謝申し上げます。

開会式後は四つの分科会に分かれて第一部会は「子ども会の活性化」を目指して、第二部会は「大切な成人者の役割」、第三部会は「青少年リーダーの役割」、第四部会は「地域との連携について」話し合いを行いました。私は第二部会第一分科会で、七人ずつ五つのグループに分かれ「指導者、育成者の発掘を行い、育成力を高める指導のあり方とは」をもとに「指導者、育成者の発掘」をテーマに話し合いを行いました。その中で、各グループが発表したのは「地域との関わりや結びつきを大切に、その中で人材を発掘していく努力が必要」ということでした。助言者の大内一浩先生の助言として「子ども会」の目的を地域と共有し、それを伝える。楽しい行事を行うこと参加しやすい体制をつくること。そのことによって結びつきを多くし、その中で指導者、育成者を発掘して育成して行く事が大切」と助言されました。



まず、「体験活動はなぜ良いか」の話で、二泊三日の宿泊体験をした子は学力テストの算数国語のB問題の成績が良いこと。自然体験を多く体験した子や「〇〇だけでなく」色々なことを体験した人は、その後の活動に大きく影響していることを現在活躍している人の名をあげ、説明されました。ここには書ききれない色々な話をされましたが笑いあいの楽しい時を過ごしました。昨日今日と勉強したことを生かして、子どもたちが色々な体験を出来るような県子連活動や市子連活動を頑張っていきたいと思えます。



第四十七回関東甲信越静地区 子ども会育成研究協議会 育成研究協議会に参加して

新潟県子ども会連絡協議会 指導研修部長 花澤 政晴



体験活動に思う

新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課 課長 松永哲郎

小学校のキャンプで

私が勤めていたある小学校でキャンプがありました。キャンプではプログラムを詰め込みすぎる傾向があります。私は飯ごう炊飯とテント立てに十分時間を確保できるようにスケジュールを調整しました。目的は「自信をもたせること」。そのために活動を絞り、自分たちの力で「やりきらせる」ことにしました。

火のおこし方やテントの立て方は、最初にやってみせます。しかしその後は、引率者には「手出し口出し無用」、危険がある場合のみ指導をお願いしました。子どもたちにも事前にそのように伝えておきました。

案の定、子どもたちは苦労していました。テント立てでは早い班でも一時間、何回もやり直した班は、二時間近くもかかって寝床を確保しました。できあがったテントの中から「乾杯!」という声が聞かれます。それはテント立てが終了したグループに配ったペットボトルの水でした。

飯ごう炊飯では、火おこしと火力調整に苦労していました。できあがったカレーを食べている子どもたちから「うまい」という歓声があがります。しかしそれは、焦げたご飯とすが入ったカレーでした。でも自分たちで苦労して作ったからおいしいのです。

何のための体験活動?

体験活動が重視されています。

平成二十五年一月の中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進」では、「便利・快適・安全な現代社会においては、青少年は全力を出す「スイッチ」を入れるチャンスを失っているのではないか。青少年の『生きる力』を育むためには、意識的に、目標をもって体験活動等にチャレンジする機会を創出する必要がある。」と述べています。

では、「生きる力」を育むために行われる体験活動とは、どのようなことでしょうか。

同答申では、体験活動の内容によって大きく三つに分類しています。それは、「生活・文化体験活動(お手伝い、スポーツ、部活動、地域や学校などの年中行事など)」「自然体験活動(登山、キャンプ、動植物観

察など)」「社会体験活動(ボランティア活動、職場体験活動など)」です。一般に授業などで行われる観察、実験、実習なども広い意味での体験といえますが、その主な目的は、知識、技能を着実に定着させることです。

一方、答申で分類されている三つの体験活動は、知識、技能を身に付けることが第一目的ではありません。自尊感情、共生感、意欲、関心、人間関係能力、文化的作法や教養、規範意識、職業意識などを体験活動によって、着実に育てていくことが、本来の目的です。

しかし、体験活動を行いさえすれば、このような力は育まれるかといえば、それは違います。

例えばキャンプにしても、何から何まで大人たちがお膳立てをした上で、子どもたちが何の苦労もなく、スケジュールが進行していく体験では、そのような力は育まれませんし、子どもたちも「つまらない」と感じることでしょう。

「どのような体験活動をするか」という、内容の吟味も大切ですが、

もっと大事なことは、「どのように体験活動を仕組むか」ということだと思っています。

苦労と感動を共にする体験活動を

妙高市では、全市小学校六年生を対象にした「中学校で一緒になる近隣の小学校六年生を対象にした宿泊学習」を行っています。現在は四泊五日ですが、発足当初は、六泊七日でした。なぜこんなに長いのでしょうか。それは本当の自分をさらけ出す状態を生み出すことで、人間関係づくりの力が鍛えられていくからです。

また上越市では、全市の中学校二年生が五日間の職場体験を行っています。一、二日間では参加する生徒は「お客さん」になってしまう可能性があります。受け入れる企業も同じです。しかし五日間となると、それなりのまとまった仕事を準備しなければなりません。生徒も受入れ企業も「働き手」としての意識、対応が求められます。

体験が単なる見学にとどまったり、マニュアルに沿って進められ、「楽しかった」だけで終わったりしてしまうのは、もったいないと思います。子どもたちが主体的に考え、試行錯誤しながら、自ら解決策を見いだし、苦労と感動を共にするプロセスを体験できるように、活動を工夫していきたいものです。

上越地区

頸城ジュニア
スポーツ大会

上越市頸城区百箇町子ども会

六年 西野 叶人

七月二十七日、今年も頸城区にある南川、明治、大湊小のチームで戦うドッチボール大会が行われました。

頸城の祭典の太鼓や笛の練習と重なり大変でしたが、ぼくたちのチーム「ビックサマー」は、昨年優勝していたので今年も必ず優勝することを目標に練習をがんばってきました。

監督から教えてもらった「相手がボールを外野に渡しても、背中



を向けて逃げない」や「ボールをキャッチしたらすぐ投げる」などのアドバイスをもらい練習をしていきました。

そして、いよいよ本番。戦いの日がやってきました。一つ、また一つと勝ち進んで四試合全て勝つことができました。

そして、ビックサマー優勝!! 小学生として最後の大会。しかも、昨年に続き二度目の優勝が決まった時は、最高の気分でした。今年の夏休みの思い出としていつまでもぼくの心の中に残っているといます。

また来年も、そして再来年もビックサマーが優勝し続けてほしいです。

ぼくは、ビックサマーのキャプテンとしてこの大会に参加できたことをほこりに思います。そして、昨年と今年の優勝でもらった二個のメダルはぼくの宝物です。やったぜ!! 優勝!! ビックサマー!!



中越地区

楽しかった
キャンプ研修

見附市今町大空子ども会

五年 清水 尋

私は、夏休みの八月二十三日から二十四日にあるキャンプに参加しました。

私はそのキャンプをとっても楽しみにしていました。その日は、とてもいい天気だったのでうれしかったです。

公民館について、最初はパティオにいがたでじまスのつかみ取りに挑戦しました。一枚で二ひき取れる券を二人で使いました。私は、にじマスを取ることができたのでよかったです。

次に、公民館に帰って、バスに乗って太平森林公園に行きました。太平森林公園に着いたら、お昼ご飯を食べ、ハンターゲームやゴルフ、またあて、ボーリングなどのゲームをし、班できそい合いました。ゴルフがとてもむずかしくて、私は十五個ボールがある内の一個しか入りませんでした。でもボーリングで、たくさんたおすことができましたのでうれしかったです。

夕ご飯は、班のみんなで考えたカレーライスとフルーツポンチを作りました。カレーライス作りでは、じゃがいもやにんじん、肉などを切るの大変だったけど、班のみんなが協力して、なんとか切ることができました。ご飯は、飯ごうでできました。少しこげただけど、とてもおいしかったです。フルーツポンチは甘くておいしくで

きました。とても上手に夕ご飯が作れてよかったです。夜になつてキャンプファイヤーをやりました。



とてもきれいでした。夜は、雨がふる予報だったので、公民館に帰ってテントをはってねました。次の日は、六時に起きて、みんなでラジオ体操をやりました。

その日の朝食も、班で考えたホットケーキを作りました。この日の昼食は、流しそうめんとおにぎりでした。デザートには、スイカがありました。とてもおいしかったです。昼食を食べたら、みんなで近くの体育館で、しっぽ取りおにごっこやドッチボールをして遊びました。最後に公民館に行くと、昨日のゲームや今日のゲームの得点発表がありました。私たちの班は、五位で少し残念だったけど、とても楽しかったです。これからいろいろな行事に参加して、楽しめたらいいなと思います。

下越地区

夏祭り
参加し〜

弥彦村矢作子ども育成会

六年 齊藤優莉佳

私たちはこの夏、弥彦村の「とうろう祭」に二日間参加をしてきました。一日目は大民謡流しで一緒に踊りました。二日目は矢作の宿の前で子どもみこしをかつぎました。

民謡流しの日は、雨が降っていた踊れるか心配でしたが、おほら雨が止まりました。この時はびっくりしました。もう一つ驚いたことがありました。それは踊る前に放送

で子ども育成会の参加の紹介があり、それを聞いた人から「子どもたち頑張れ」と言ってもらったり拍手をもらったりしたことです。恥ずかしかったけれどやっぱうれしかったです。踊りの先生から教えてもらった弥彦音頭

一之宮甚句、佐渡おけさを元気いっぱい踊りました。

次の日の子どもみこしは、矢作



の大きなとうろうが神社から宿に来るまでの間にありました。子ども用のみこしを作ってもらい、おそろいの法被を着て参加をしました。みこしの練習では、きやりや

けれど本当に楽しかったです。この二日間で弥彦村の祭りを知ることできました。小学生最後の夏に良い思い出が作れました。

佐渡地区

夏の祭り
参加し〜

佐渡市豊田子ども会

六年 瀧川 浩気

ぼくは、佐渡の豊田という海と山と田んぼがある豊かな土地に住んでいます。そこでは、夏休みの最後の土曜日に、諏訪神社のお祭りがあります。

まず、朝一番に、女の子の神楽舞があります。

それから、お昼頃、大人も子どもも集まって、神様の前で、おほらいをしていただきます。その後、そろいの青はんてんを着て、集合写真を撮りました。

いよいよ、子どもみこしのスタートです。今年も天気が良く、暑かったです。おみこしはとても重くて、坂を上がる時は大変だったけれど、力を合わせてがんばりました。途中、お当番の家では、ごちそうを用意して下さっています。みんなはこれが、たまりません。ぼくも弟といっしょに、おなかパンパンに食べました。女の子は笛、男子はたいこをたたく番もあります。ぼくも、タンタタン・タンタタンとがんばりました。全部で、四キロメートルぐらいの道のりを歩きましたが、友達といっしょで楽しかったです。



夜になって最後に、女子の神楽と男子のよさこいを、立派な能舞台で発表する時間になりました。夏休み中、友達といっしょに練習したけれど、本番はいろいろな人が、見に来ているので、とてもきちょうしました。白と青と赤のよさこいはんてんに、ねじりはちまきを巻いて、ついにぼくたちの番です。チャッチャッチャツツ。

「やあー」

ぼくは、六年生だから、最後のよさこいになります。来年からできないので、すぐがんばりました。終わった時、すこいはく手でした。家族みんながほめてくれたのでうれしかったです。

今年も、無事に祭りが終わって良かったです。来年から、よさこいが

できないのが少し悲しいけれど、とても良い思い出になりました。

平成26年度 第1回中学生・高校生ジュニア・リーダー中級研修会

- 1 期 日 平成26年6月28日(土)～29日(日) 1泊2日
 2 会 場 国立妙高青少年自然の家
 3 日 程

	10:30～	13:00～	14:40～	18:30～
〈1日目〉	受付 開会式 オリエンテーション	昼食 実技 レク活動	休憩 野外炊飯 (安全教育の実習)	夕飯 夕食 天体観測 入浴・就寝
〈2日目〉	6:00 起床 7:00～ 朝食 9:00～ 児童文化活動 (手話で歌おう)	10:30 創作活動 作って遊ぼう (星座早見缶)	13:00～ 昼食 実習 (プログラムを作ろう)	14:30 閉会式

JL中級研修会に参加して

板倉JL

二日間で学んだこと

高三 目黒 瞳

私は今回の研修会での参加は二回目でした。二回目ということもあり、前回よりリリラックスして研修にのぞむことができました。

研修会参加者は、長岡と板倉の二つの地域だけということもあり、地域活動の内容について情報交換をたくさん行うことができました。

また、研修会の中ではレクの意義について学びました。その後、地域ごとにレク発表を行ったりました。

そのほかにもたくさん学ぶことはありました。特に印象が残っているのが野外炊事とプログラム作りです。野外炊事ではKYTの仕方を工夫したり、段取りや役割り分担をしっかりとった方がいいと思いました。また、プログラム作りは、前回と違いグループごとでホワイトボードを使って行いました。付せんを見でき、得ることがありました。



今回の研修会で得たこと、反省点を生かして今後の活動につなげていきたいと思いました。

また、地元のリーダーたちにもしっかりと伝えていきたいと思いました。

中級研修会に参加して

中二 新井 翔太

僕はジュニアリーダーとして研修会に参加したのは二回目でした。

今回の研修会は、二回目ということとで以前よりも少し楽に過ごせたような感じがしました。今回参加してとても印象深く思った言葉があります。それは、「参加者気分にならない。」ということ。この言葉を聞いて、今まで行事等に参加するときは、参加者として、周囲の人々から何かをやってもらおうというような



ことで参加をしていました。でもこの言葉を聞いてから、何事にも自分のことは自分でしっかりとやるなど、行事等を自分たちで盛り上げるというようにしていきたいと思いました。今回の研修会は、普段やらないような手話や昔の遊びなどを経験ができてとてもよかったと思います。その他に別の地域のジュニアリーダーなどと過ごして、とても仲間の大切さを実感したし、とても楽しい研修会になったと思います。

今回の研修会で教わったことを、地域の活動などにフル活用したいです。また、今後の研修会などにも積極的に参加をして、小学生などから「ジュニアリーダーってかっこいいな。」などと思ってもらえるように、精一杯がんばってみたいです。

中級研修会に参加して

中一 金子 柊

今回、JL中級研修会に参加しました。初めは、友達や先輩以外は遠い地区から来ていて大きな不安を持ちました。例えば、この先うまく会話と一緒に作業をすることができると不安だったことです。ですが、開会式での班決めで仲良くなることができました。

オリエンテーションでは活動班の班長を務めさせてもらい、自分から声を出したり皆をすくまとめることもできました。

僕が中級研修会で一番身に付き考えさせられたことは、初めのレクリエーション活動です。JLでは小さい子どもたちもよく相手をしています。その中で遊びを考えるのは大変です。遊び方の説明では内容が大切だと分かりました。その話では場所、ゲームの組み立て、人数や安全が大切なのだと知りました。限られた中でゲームはよく考えないと難しいです。ゲームの流れや使う時間や知らないことを山ほど知り、身に付きました。

今回の中級研修で話にはでてなかったことも良い経験になりました。今後の活動にも今日ならったことを生かし、子どもたちのために全力で努めていきたいです。今回の研修で関わった人たちに本当に感謝します。

JL中級研修会に参加して

中一 古川 諄

僕は初めて中級研修会に参加しました。初めは知らない人ばかりで少し不安でした。ですが色んな活動を通して友達になることができました。色んな人と話をしてとても楽しい二日間になりました。

僕がこの会で学んだことは時間を見て行動することです。初めは時間を見て行動していなかったのですが、遅れたりしてしまいました。ですが時間がたつにつれ、時間を意識して行動することができるようになりました。

また、教えてもらったレクリエーションなどがとても参考になりました。色々な会でそれを、やってみていなと思いました。

この会では色々なことを学びまし



た。学んだことを実せんしていききたいです。これからも、毎回参加してもっと多くのことを学びたいです。

JL中級研修会で学んだこと

中一 相葉 堅斗

僕は、初めてJL中級研修会に参加しました。どんなことをするのか分かりませんでした。参加する前からとても楽しかったです。

今回の中級研修会で学んだことは二つあります。

一つ目は、作業を分担することの大切さです。研修会では分担をせずに作業を行いました。そしたら予定時間より大幅に遅れてしまいました。普段何気なく作業を分担してたけれど、改めて分担をすることで効率よく作業できることがわかりました。

二つ目は、時間を意識することの大切さです。学校での生活はチャイムがあります。しかし、研修会ではチャイムはありません。時間を意識せずに食事の片づけをしていたら、かなり時間がかかってしまいました。自分から時計を意識して行動しないと物事に遅れて、周りに迷惑をかけてしまいます。

この二つが、今回の反省点でもあり、学んだことです。この二つを、今後の活動に生かしていきたいです。



す。研修会は大変なこともあったけれど楽しかったです。

JL中級研修会に参加して

中一 小林 未流

今回初めて参加し、最初は、何をやるか不安でしたが、先輩や、シニアの方、講師の先生に優しく指導していただいて、とてもいい研修になったと思います。中でも実技の活動と実習の活動です。

一つ目の実技では、さまざまなゲームの種類を知ったし、ゲームの流れについても僕は、みんながピークの時に止めてしまおうと思ったけれど、落ちつく時間を作ることや、メリハリをつけることの大切さや、説明の回数や説明の大切さなどが理解できたのでよかったです。

二つ目はプログラムを作るという所では、集まる場所や、目的、人数、時間、行うゲームなどを細かく決め、プログラム作りの大変さを知ったり、ゲームの順番の決め方を知りました。

三つ目はKYTについてです。この学習では、分担の大切さ、刃物をあつかう時、安全なおきかたを学びました。

このような経験を生かし、これからの活動に生かしていきたいし、またこのような機会があればどんどん参加していきたいです。

長岡JLC

中級研修会に参加して

中二 中村 あみ

私は、初めてこの中級リーダー研修会に参加しました。

行く前はどんなことするのか？と期待と不安もありました。でも、楽しく、いろいろなことを学んで帰ってくることができました。

まず、一日目に印象に残ったことは、レク研修です。私は、いままでただ単に思いついたレクをひたすらやっていました。でも、それは違いました。レクをする時は、時、場所、目的、人数、そしてKYTという五

つの要素が必要だと学びました。また、ゲームの流れ、説明のやり方など、基礎を知ることができました。

二日目に印象に残ったことはプログラム作りです。小学六年生を対象とし、場所、時間は自由でした。グループで考えていく中で、目的はなにか、何をすれば楽しんでもらえるかを案を出し合い考えました。一からの作業で、とても大変でした。でも、いろんな案を出すことができ、班で協力して、プログラムをつくることができました。

このように私は二日間でさまざまなことを学ぶことができました。これを地元のリーダーにも伝え、学んだ基礎から、次の発展へとつなげていきたいです。



妙高の中級研修会に参加して

中三 中静 直樹

僕は、今回の中級研修で学んだことはいっぱいあります。

一番印象に残っているのは、時計です。僕たちは、集合時間を忘れていて、講師の方から「時計は、飾り物か。」と言われて、ちゃんと時計を使わないとダメだなあと思いました。それで、ジュニアリーダーとして、時間前集合はあたりまえにしたいです。

最後に、今回の中級研修は、いろいろなことを学べたし、妙高自然の家で、おいしいご飯も食べれたし、楽しかったから、今回の中級研修はとてもよかったです。

中級研修会に参加して

中三 筒場 流至

今回の中級は、僕にとって二回目でした。前回とはまた違ったことを学べたので、僕にとってはとてもためになる研修会でした。

研修の中で、レクをやるときに、どんなレクをやるのがいいかを考えたり、盛りあげ方を考える時間がありました。僕は今まで、どちらかというとレクをするとき、自分ができるレクをとにかくかたっぱしからやっていたので、この研修はステップアップにつながる、とてもいい研修だったと思います。



反省点は、時間を常に気にすることができなかったことです。今回、僕は中三で、参加者の中でも上の学年なのに、シニアの人にいわれないと気が付けないということがたくさんありました。時間を気にしていないと、行動がぐだぐだになって、プログラムがぶれることだって起こりかねません。今回の中級で、そのことをしっかり意識し、その後にあった夏のキャンプでは、常に時間を気にすることで、うまく班をまとめ、リーダーを助けてやることができました。

今回学んだことは、必ずステップアップが必要になってくると思いますが、今回学んだことのすべてを、忘れないようにしていきたいです。

第四十二回

関ブロJ大会

充実した三日間

上越市板倉JLCC

会長 目黒 瞳

関ブロに参加した三日間はとても充実していました。

一日目は、七沢探検隊という活動で班員と仲良くなることができました。その後の「あゆこ杯」では、レクについて色々学ぶことができました。

二日目は、コース別研修があり、私はダンスを選択しました。ダンスコースでは三時間で覚えた振り付けを十分でいえる方法を学んだり団結力についてなどを学んだりすることができました。また、仲間同士で教えあうと自分の苦手な部分を知ることができるということも改めて学びました。その後の夕べの集いで



は、各県のスタンツ発表を行いました。スタンツでは、普段やっていないレクでも県が違えば内容などが変わったりして楽し

かったですし、たくさんの発見があったりしました。このスタンツ発表で学んだことを地元のリーダーにもちゃんと伝えていこうと思いました。また、フリータイムでは、一日目とは違い、男女共に交流ができ、情報交換もたくさん行うことができました。

三日目



は、二日目に比べてコース別研修での活動発表を行いました。バルーンアートは、難しかったけど皆で楽しむことができました。また、中・高校生でも楽しめたので、小学生にやってあげたらきつともっと楽しんでもくれるのではないかと思います。動画は、製作発表でした。テーマは「リーダーをやったよかったこと」でした。この動画は、本当に見ても楽しかったし、リーダーの楽しさなどを伝えるのには最適だなと思いました。そして、ダンスでは前日やったダンスをみんなでおどるほかに、もう一回やりました。これは、最後にみんながいい思い出作りができました。



この三日間で得たことは、たくさんありました。関ブロで得たことをしっかりと地域のリーダーたちに伝えていきたいと思います。

また、関ブロで知りあったリーダーたちとは今でも情報交換をしあっています。普段の活動内容だけではなく、KYTの仕方など色々なことを聞いたりして、関ブロの後でもこうやってつながっていられてよかったなと思います。

簡単にまとめましたが、関ブロのよさが皆さんに少しでも伝わっているといいなと思います。

また、最後になりましたが関ブロのスタッフ、参加者の皆さん本当にありがとうございました。そして、ありがとうございました。

二度目の関ブロ

長岡市子連JLCC

多田佳寿美

私は八月十五日〜十七日に関ブロ神奈川大会に参加してきました。私

は今年二回目の関ブロで、去年できなかったことのリベンジとさらなるジュニアリーダーとしての成長を目標として参加しました。

去年できなかったこと、それは、班など関係なく参加者のみんなに積極的に声をかけていくことです。今回の関ブロでは、全員は無理だったけど、たくさんの人に声をかけて仲良くなることができました。同じ趣味を持つ仲間とも出会うことができました。年齢も生まれ育った場所も性別も違う、共通点はジュニアリーダーというだけだけど、こんなにたくさんの人と仲良くなれて本当にうれしかったです。やっぱりジュニアリーダーってすごいなあと思えてきました。

そして、今回の関ブロでもジュニアリーダーとして成長できたと思います。去年の長野大会とはまた違ったことを神奈川大会では学ばせてもらいました。中でも特に新潟に帰ってきてやりたいなと思ったことが二つあります。一つ目は一日目のあゆこ杯でやったレクのように自分たちでレクを考えて自分たちの名前がついたゲームで人を楽しませることです。長岡でこのような研修会ができたかなと思いました。二つ目はバルーンアートです。これはコース別研修でしっかり教えてもらったことなのでバルーン研修したいと思います。とても楽しく身になった関ブロ神奈川大会でした。



子ども会KYT初級指導者 講習会に参加して

新潟市子ども会連絡協議会 副会長 近藤 義衛

今年の二月、世界のギター・コンクールを総なめにしたギター界の新星・朴葵姫ギター・リサイタルに行った。新幹線が大雪で運休していたので、新潟市のコンサートは中止かと思っていたが、「二日前に新潟市に来ていた」と言っていた。また、今回のKYT指導者講習会の参加者で会場の場所を自宅から所用時間、会場を確認するために事前に下調べし遅刻しないようにしたという。いい話でないか。

平成二十六年七月十二日(日)、会場新潟市巻地区公民館、参加者十四名で「子どもKYT会指導者講習会」が開催された。講師は全国子ども会連合会子連専門委員の柴田俊明氏を迎えた。

午前は柴田講師の歯切れのよい講義。講演主旨は次の通り。KYTとは危険のK、予知のY、トレーニングのTをとった危険予知トレーニングの略という。「安全とは何か」、「備えあれば憂いなしの意味は」、「備えても事故は起きる」その原因は、人はい「うっかり」したり、「思い違い」をしたり「手ぬぎ」をしてしまう。人間の特性がエラー(ヒューマンエラー)を生み労働災害の原因となっている。ヒューマンエラーは

講習会に参加して

「本人がミスをおかしているのに気付かない」エラーである。KYTはもとと作業現場では「ヒューマンエラーによる事故」を防止、安全と健康を「先取り」する目的で生まれた。「エラー」する人間同士だからこそ、みんなでKYTをしようというねらい。そのために「一人ひとり」が「危険」に対する感受性をするとくし、作業中、活動中の「要所・要所」で「集中力をたかめる訓練。国がさだめた労働災害防止計画にも危険予知活動が取り上げられている。

子ども会がKYTを取り入れた経過は、一九七六年八月一日、子ども会活動中に小学五年生の水死事故があったことから始まった。指導者は、事故の発生を予見する注意義務を怠ってはならない。また、事故を回避する義務もある。しかし、子どもたちの安全管理にも限界があるので、自分の命は自分で守る意識づけをすること。そのためにKYTの必要性がある。

危険を知るには危険を知ることがからはじめる。①見える危険と見えな危険②危険は隠れる、危険は動く③事故要因が重なる事故発生確率が高くなる。④事故発生には予兆がある。H. ハイリリッヒ氏の「一・二・三〇〇の法則」がある。一

II 大事故(災害)二十九II 軽い事故(事故)三〇〇II ヒヤリハット(予兆)。不安定状態・不安定行動II 大事故もヒヤリハットの根っこは同じこと。病院職員はヒヤリハットも法則を重要視して医療事故を防いでいると聞いている。正しい危険予知活動を定着させるには日々の訓練が不可欠である。

午前中の講義から一変して、午後三グループにわかれて、実技のKYT四ステップを次のように学習した。

子ども会KYTテキストの中から「子どもたちがキャンプで調理をしています。どこがあぶないかわかりますか」の作業風景のイラストをみてワークシヨップを行う。第一ステップは、イラストに潜む「危険な箇所」を発見する。(危険の発見II 危険要因かき集め)

第二ステップは、第一ステップで発見した危険要因のなかで、特に重要と思われるものに「三項目を最重要として絞り込み〇印をつける。これが危険のポイント」(これが危険のポイントII 最大危険の絞り込み)。



第四ステップは、①樹立した事故対策をベースに、事故防止のためのチームの行動目標をたてる。②誰もがイメージできる「行動の目当て(スローガン)」として現してみよう。③その結果をチームで指差し唱和する。(私たちはこうするII 行動目標を作り実践へつなげる)

柴田講師は金石市と交流があり東日本大震災の「金石の奇跡」を話された。小・中学生の生存率九十九、八パーセントで「金石の奇跡」で防災教育の重要性を確認したが、「少数の子どもの犠牲になったことや、一人でも犠牲になった子どもたちがいたことに大後悔やまっていた」と語っていた。

最後に、KYT講習会が終わり、この掲載文を執筆する間、全国にヒューマンエラー(人為的過誤や失敗(ミス)、による小さな事故、死亡事故など大きな事故が新聞やTVに報道されている。備えていても事故は起きるといって「念には念を入れよ」ということわざもある。子どもたちは私たち指導者が想定しない行動をおこすことが多くある。それが事故につながっている。KYT講習会後、私は日常生活のなかで実践している。指差唱和などである。



子どもの
遊びのひろば

何ものにも代えられない 子どもたちの笑顔

南魚沼市子連会長 風間 浩一

去る九月七日に新潟県子ども会連絡協議会（以下、県子連）から魚沼市で開催していただいた災害復興祈念事業「子どもの遊びの広場」に南魚沼市子連のブースを設けさせていただきました。

地区ブースは、新潟市、加茂市、三条市、柏崎市、妙高市そして長岡市からは長岡市と小国町地区の子ども会から出店。当地区と合わせ八ブースが立ち、会場の中央にはご存じ一万個の積み木の山。

たびたび参加させていただいて感心することは、各地区子ども会で、定番の遊びがあることです。それも、子どもたちがブースに群がるような興味のつきないものばかりです。

残念ながら、当南魚沼市子連では定番の出し物がないことから、参加のたびに違う出し物を持って行き、ブースに来ていただいた子どもたちの反応を見ながら、次回の出し物を検討するという、行き当たりばったり（良い言い回しです）とこれを一期一会と言いますが・・・の行動を取っています。そのためか、回によって当たり外れが発生し、時には会場の子どもたちが全て寄ってくることもありました。

実を言えばそろそろネタ切れの感じもあり「南魚沼はこれ！」と言う物を絞りこまなければならぬかなとも考えてはいます。

今回持って行った物は「星座早見缶」といって上越市清里星のふるさと館で行っている工作キットの物をちよっと南魚沼風にアレンジして作った物でした。

会場となった堀之内公民館は常設のプラネタリウムが設置されていることもあり、今回は無料の公開をお願いしたところ、快く応じていただきました。

このプラネタリウム施設に乗って、子どもたちに星空に興味を持ってもらおうと今回の工作を準備したのですが、最初のころに立ち寄ってくるのは、親に連れられた少々尻込みをしながら付いてきた子どもたちでしたが、工作を始めると、目の色を変え夢中で手をうごかしているのです。嬉しそうに出来た作品を眺めている姿を見ると、『これを持ってきてよかった』とこちらもうれしくなります。

□□ミなのか次第に星空と工作に興味のある子どもたちが訪れるようになり、少々安心しました。

どこの地区のブースでも、子ども達は本当に楽しそうに笑顔で遊んでいるてくれま。

我がブースに顔を出してくださった皆さんは、少なからず星空には興味があり、あこがれがあるようです。工作はハサミやカッターナイフを使わなければならぬので、小さい子ども達には少し敷居が高く感じたのかもしれない。（これは次回からもう少し考えないといけないな）

各地区子連の皆さんは、私もたびたび会場に顔を出していることもあり、顔なじみの方ばかりでした。

こんな所で親交を深め、情報交換も行つというのも、この事業に長く



係わっていたからなのですが、若からぬ年齢の私にとって新しい人との縁は、ワクワクする出来事でありま。

もともとこの事業は、十年前の中大震災のあと、地域の復興と子どもたちに笑顔を取り戻そうと始められたものでした。十年が経ち「子どもの遊びの広場」にワクワク感を持って足を運んでもらうようになり、その目的もほぼ達成されつつあるものと感じます。

会場にきていた子どもたちは、すでに大震災の災害があったことさえ分らない子どもたちも多くいて、東日本大震災などの大災害でも遠くで起きた他人事のように感じている子も見られました。このことから、逆に忘れてはならない震災の記憶を何かの形で残し、伝えていかなければならないことも事実です。

子どもたちに帰ってきた笑顔に、私たちは安心し、子どもたちの笑顔が消えないようにすることが務めと、改めて誓いを新たにします。

最後になりますが、会場となった堀之内公民館全施設の提供とすばらしいプラネタリウムの公開をしていただいた、魚沼市社会教育課の皆さんに感謝申し上げます。また、「子どもの遊びの広場」という事業を開催している県子連の皆様方に敬意を表すものであります。



笑顔がいっぱい！ 「こどもの遊びのひろば二〇一四」

佐渡市こども会連絡協議会 事務局 渡邊 一哉

佐渡市子ども会連絡協議会では、六月二十八日（土）「こどもの遊びのひろば二〇一四」を金井コミュニティセンターを会場に開催しました。前回、新潟県子ども会連絡協議会から協力いただき、初めて佐渡市で行ったところ、驚くほどの反響があったことから、市子連事業として取り組んだものです。

今回は、新潟県子ども読書推進事業「サトシンさんおはなし会」と共催することとし、より多くの親子での参加と関係機関との連携を目的に開催することとしました。また、用意した遊びのコーナーは、前回好評であった絵手紙、バルーンアート、積み木、紙コップロケット、シオパーク体験、落書きコーナーのほか、新たに読書読み聞かせボランティアによる絵本紹介コーナーも用意し、多くの親子連れが読み聞かせを体験し、一緒に楽しめるよう企画しました。



当日は、市子連理事や一般ボランティアの年長から小学生低学年の子どもの中心とした親子約二五〇名の参加がありました。

「サトシンさんおはなし会」に参加した親子は、時には一緒に歌ったり、大きな笑い声がおこったり、とても楽しいひとときとなりました。

絵手紙コーナーでは、小さな子どもが巧みに筆を使いながら無心に絵を書き、その子どもを見守る親の姿がとても印象的でした。

うさぎとパンダの着ぐるみも子どもたちには好評で、担当したスタッフも汗だくとなりながら大活躍となりました。大人も子どもも無心で遊が一日となり、子どもにはテレビゲームだけでない遊びの楽しさを知ってもらい、親子で一緒に楽しむことの大切さと親子の絆を実感してもらうイベントとなりました。

<こどもの遊びのひろば2014の感想>

期 日 平成26年6月28日（土）

場 所 金井コミュニティセンター

回答者数 21名

いろいろなコーナーがあり、つくり方をていねいに教えてくれたのでうれしかったです。来年が楽しみです。

<項目別回答結果>

Q1. サトシンさんおはなし会はどうでしたか？

とてもたのしかった	たのしかった	つまらなかった	無回答
14	5	1	1

Q2. あそびのコーナーはたのしかったですか？

とてもたのしかった	たのしかった	つまらなかった	無回答
18	3		

Q3. どんなあそびをしたいですか？

（・たけとんぼ ・スライムづくり とか）

- ・レプリカ作り（2人） ・おてがみ ・おりがみ ・紙ひこうき
- ・ぜんぶ ・かるた ・スライム作り（5人） ・竹とんぼ（4人）
- ・昔のあそび ・化石づくり ・積み木 ・バルーン
- ・簡単な工作 ・ボールプール ・輪投げ ・ヨーヨー
- ・らくがきコーナー

Q4. またあそびのひろばにあそびにきたいですか？

ぜったいくる	あればきたい	わからない	無回答
12	9		

Q5. きょうのかんそうをかいってください。

- ・子どもが飽きない工夫があってよかった。ありがとうございました。
- ・楽しく遊べました。もっともっと宣伝してほしい。とてもいい思い出になった。
- ・化石レプリカを作るのが楽しかった。いろいろな化石レプリカがあって面白かった。
- ・サトシンさんは面白かったし、いろんなコーナーがあって楽しかった。
- ・サトシンさんの絵本が楽しかったので、また行きたい。
- ・素晴らしい企画をどうもありがとうございました。子どもがいろいろな遊びを楽しんでいてよかった。
- ・サトシンさんのお話がおもしろかった。遊びのコーナーは、化石づくりが一番楽しかったです。また来年来たい。
- ・いろいろなことができたのでよかった。
- ・いろいろなコーナーがあり、作り方を丁寧に教えてくれたのでうれしかった。来年が楽しみ。
- ・音がうるさくて、小さい子を連れては無理でした。



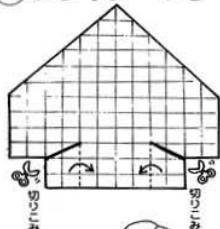
創作活動 作って遊ぼう その19

★ グライダーをつくる ★

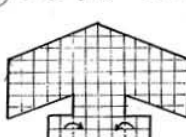
用意するもの
工作用方眼紙
ハサミ
ペン

工作用方眼紙にペンで図のような形をかいて(点線は谷折り)、飛ばしてみよう。

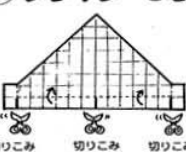
① グライダー-1号



② グライダー-2号



③ グライダー-3号

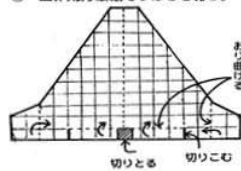


はねのおりぐあいや、飛ばし方をいろいろ工夫して、よく飛ばないようにしよう。

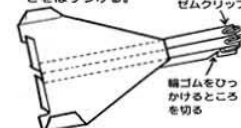


④ 輪ゴムで飛ばすグライダー

① 工作用方眼紙でつばさを切る。



② 木工用ボンドで、どうたいにつばさをはりつける。



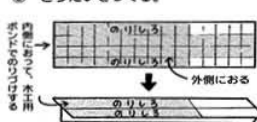
飛ばし方



グライダーのはねの下の出っばりをもち、輪ゴムにひっかけて、うしろに引っぱって輪ゴムをのばして手をはなす。どのくらい引っぱるといいかな? どんな角度にするといいかな? はねのおり返しぐあいは? 飛ばしてみてもちようぜつしよう。

用意するもの
輪ゴム...2本 わりばし
木工用ボンド ゼムクリップ...2つ
工作用方眼紙 ハサミ ペン

③ どうたいをつくる。



④ 発射機をつくる。



◆ 今後の予定 ◆

【平成二十六年】

十一月二十日(木)～二十一日(金)

関ブ口地区会長・事務局長会議

十一月二十三日(日)

新発田市子連創立四十周年記念式典

十一月二十九日(土)～三十日(日)

関ブ口地区KYT中級指導者養成講習会

十二月七日(日)

県子連第二回理事会

【平成二十七年】

二月二十日(金)～二十一日(日)

全国子ども会育成中央会議

三月八日(日)

県子連第三回理事会

三月十三日(金)

県子連だより第一一六号発行

三月二十一日(土)

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子連第三回ジュニア・リーダー中級研修会

県子ども会連絡協議会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

あとがき

○九月初旬に魚沼市堀之内公民館で県子連主催の「遊びの広場」が開催されました。魚沼市はまだ県子連に加盟していませんが、子ども会活動の楽しさを知ってもらうために実施しました。多くの子どもたちが楽しいひと時を過ごしてくれました。ご協力いただきました魚沼市教育委員会、堀之内公民館の皆様には感謝申し上げます。

○世の中には「星」に詳しい人がいるものです。JL中級研修会に一緒にいらした時、星座について実際に話しそうに子どもたちとお話をするんです。南魚沼市子連会長の風間浩一さんです。素晴らしいですね。今、世界の動きがちよっと心配です。「イスラム国」に「エボラ出血熱」大きな問題になりませんように...

○県子連だより第一一五号を発行するにあたり、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。(文責：板垣)

編集発行 新潟県子ども会連絡協議会
〒951-8131
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇五-一三〇-五九八
FAX 〇五-一三〇-五九二